

## 平成25年度 第1回 社会教育委員会議・公民館運営審議会会議録

日 時：平成25年6月25日（火）午後1時30分～3時

場 所：鳥取市文化センター 2階 第2会議室

出席委員：＜委員＞栗岡委員、中島委員、徳田委員、村山委員、松本委員、森田委員、須崎委員、荒木委員、川木委員、吉澤委員、米沢委員、土井委員、外川委員、田淵委員、伊藤委員、田中豊朗委員、清水委員、大西委員

（欠席：大角委員、田中秋年委員）

＜事務局＞木下教育長、北村課長（生涯学習課）、吉田課長補佐（同左）、馬場主任（同左）

※発言内容等について、事務局で一部加筆訂正しています。

### 1 開 会（進行 北村生涯学習課長）午後1時30分

### 2 教育長あいさつ

### 3 委嘱状交付

### 4 委員・出席者紹介

### 5 会長及び副会長選出

生涯学習課長が臨時議長を務めて進行した。会議の成立について委員の過半数である18名の委員出席を確認し、成立宣言する。会長の選出についての意見を募る。意見なし。事務局が、会長に土井康作委員、副会長に荒木俊近委員を推薦する旨提案する。推薦案について異議がなく承認され、推薦案のとおり会長に土井康作氏、副会長に荒木俊近氏が決定された。

### 6 協議事項（進行 土井会長）

これ以降、土井会長が議長として進行した。

#### 委員の位置づけと役割等について

社会教育委員及び公民館運営審議会委員の法的位置づけ、役割について事務局説明。

#### （1）平成25年度社会教育関係事業計画について

（事前に配布した資料、当日配布資料をもとに事務局説明）

〔委員〕 高齢者人材活用事業について、現役時代に培った知見を地域に還元していく自主的に気軽に教える雰囲気をつくるのが大切ではないかと考える。

〔事務局〕 委員の御意見もこの人材活用事業のなかに含まれている。学習成果を活かすもの、これまでの知見を活かすのも両方がこの事業に含まれている。

〔委員〕 公民館も人材の名簿を持っていて活用しているし、またそれ以外でも地域の人材を探して活用している例もある。

〔委員〕 公民館が主体となって人材探しをするのではなく、住民主体で地域人材の活用を行っていくようなことはできないのか。

〔委員〕 地域住民にも様々なタイプがある。用瀬町中央公民館の成人学級では、長年の歴史のなかで様々な経験をつんだ人々が参加している。その参加者が自らの経験を活かしてお互いに講師を務め、持っている経験や知識を共有している例もある。

用瀬ふれあい祭りは平成3年に県モデル指定をうけ、生涯学習推進協議会本部を立ち上げ、各種生涯学習団体合同で開催した。生涯学習を中心に据えて盛り上がっている。

〔議長〕 この人材活用事業は、地域の人材活用の1つの手段であり、様々な人材発掘の方法があると考えます。この事業だけではなく、地域に在住する方を講師に呼んで学習会をすることも方法である。

〔委員〕 3点申し上げる。1点目として、公民館はそれぞれ特色を活かした事業を行っているので、それぞれの公民館が交流する機会があれば、と考える。

2点目として、少年愛護センターの補導活動に参加してみて休日に子どもたちが気軽に集える場所をつくる必要を感じている。

3点目として、ろうあ成人学級について、必要な取組みだが、「ろうあ」という名称は法律上も使用されていない言葉であり、使用することを考えるべきではないか。

〔事務局〕 1点目について、地区公民館同士の交流も徐々にではあるが、交流活動を行っていると同っている。鳥取市も広域化しており、山間地、都市部それぞれの地域の特色を活かした交流活動が広がりつつある。

2点目について、子どもたちが気軽に集える場の設置については、以前にも御意見をいただいております、補導活動だけでなくそのような場所づくりも今後の検討課題と考える。

3点目について、「ろうあ」という表現について、以前、関係団体の当事者の方々に問合せを行った。この言葉は上部団体でも用いられており、

表現上問題はないとの回答であった。この「ろうあ成人学級」という名称は参加者の方が命名したものであり、その自主性を尊重している。また参加者がこの名称に慣れ親しんでいるという長い歴史もある。但し、委員の御指摘も踏まえ、今後この名称を使用していくかは関係団体の意見を聞きながら、引き続き時代にあった表現か意識していきたい。

〔委員〕 公民館連合会では単体の公民館同士の交流だけではなく、ブロック別交流会を設けている。公民館も交流の重要性を認識している。

〔委員〕 「ろうあ」という言葉は長い歴史があるが、当事者が使用しているのではなく、市の教育施策名で使用しているという点を踏まえて検討されたい。

〔委員〕 公民館の交流について、各公民館が様々なことをやっておられるだろう。そこに、地区外の住民も参加できるようにしていただきたい。これは要望である。

〔議長〕 子どもの居場所づくりについて、米子市の児童文化センターのような放課後の居場所の必要性を感じている。

## (2) 平成23・24年度の協議内容について

(事前に配布した資料、当日配布資料をもとに事務局説明)

〔委員〕 公民館運営の課題について、少子高齢化時代を課題に考えるとあるが、超高齢社会を迎える今、独居老人の問題も公民館の課題として捉えるべきだ。

## (3) その他

なし

## 5. その他

なし

## 6. 閉会 午後3時